



2022年8月12日

各 位

会 社 名 テックファームホールディングス株式会社
 代 表 者 名 代表取締役社長 CEO 永守 秀章
 (コード番号: 3 6 2 5 東証グロース)
 問 合 せ 先 経営管理部長 松本 圭太
 (TEL. 0 3 - 5 3 6 5 - 7 8 8 5)

業績予想値と実績値との差異、個別業績の前期実績値との差異及び
 営業損失、特別損失並びに法人税等調整額（益）の計上に関するお知らせ

2021年8月13日に公表いたしました2022年6月期（2021年7月1日～2022年6月30日）の通期連結業績予想値と本日公表の実績値に差異が生じたこと、並びに、個別業績において前期実績との間に差異が生じたので、下記のとおりお知らせいたします。また、営業損失及び特別損失並びに法人税等調整額（益）を計上することとなりましたので、併せてお知らせいたします。

記

1. 2022年6月期 連結業績予想値と実績値との差異（2021年7月1日～2022年6月30日）

| | 連結売上高 | 連結営業利益 | 連結経常利益 | 親会社株主に帰属する当期純利益 | 1株当たり連結当期純利益 |
|---------------------------|-----------------|---------------|---------------|-----------------|-----------------|
| | 百万円 | 百万円 | 百万円 | 百万円 | 円 銭 |
| 前回発表予想 (A) | 5,000 ～5,500 | 250 ～300 | 250 ～300 | 120 ～160 | 17.02 ～22.69 |
| 実 績 値 (B) | 5,519 | △237 | △206 | △168 | △23.86 |
| 増 減 額 (B - A) | 19 ～519 | △487 ～△537 | △456 ～△506 | △288 ～△328 | — |
| 増 減 率 (%) | 0.3 ～10.4 | — | — | — | — |
| (参考) 前期連結実績 (2021年6月期) | 6,003 | 177 | 214 | △538 | △76.40 |

2. 差異の理由

当第4四半期における売上高は、ICTソリューション事業において開発案件が継続伸長したことにより順調に推移いたしました。利益については、下記のとおり、ICTソリューション事業において採算が悪化した大型開発案件について、一定の改善を目指しておりましたが、営業損失として受注損失引当金を追加計上することとなったこと、また、直近の受注環境を踏まえ、新規の大型案件の受注による利益獲得などを見込んでおりましたが、当該案件への開発人員の増員により他の新規案件の受注を見送ったことによる機会損失や、エンジニアの採用及び教育等の人財投資の増加により、前回予想を下回る結果となりました。

3. 2022年6月期 通期個別実績と前期個別実績の差異（2021年7月1日～2022年6月30日）

| | 営業収益 | 営業利益 | 経常利益 | 当期純利益 | 1株当たり 当期純利益 |
|-----------------------|-------|-------|-------|-------|----------------|
| | 百万円 | 百万円 | 百万円 | 百万円 | 円 銭 |
| 前期実績（A） （2021年6月期） | 994 | 445 | 442 | △576 | △81.77 |
| 実績値（B） （2022年6月期） | 762 | 169 | 167 | 95 | 13.44 |
| 増減額（B－A） | △232 | △276 | △275 | 671 | — |
| 増減率（％） | △23.3 | △62.0 | △62.2 | — | — |

4. 差異の理由

当期におきましては、連結子会社からの受取配当金が減少したことにより、営業収益、営業利益、経常利益がそれぞれ前期に比べ減少いたしました。また、債権放棄損及び貸倒引当金繰入額が前期に比べ減少したことにより当期純利益が前期に比べ増加しております。

5. 営業損失の内容

当社の ICT ソリューション事業において受注しております大型の開発案件で、開発スケジュールに遅延が発生（以下、本遅延という）することが明らかになったことから、今後の開発コストを見積もった結果、受注損失引当金繰入額として 72 百万円を第 3 四半期連結会計期間に計上しております。しかしながら、当連結会計年度末時点においても本遅延が継続していることから、110 百万円を追加計上することといたしました。（本引当金累計額は 183 百万円となります。）

当社はコロナ禍で先端技術案件が一時的に減少している間、さらなる成長ステージへとシフトするため大型案件の受注獲得を進めてまいりました。その中で当該案件はこれまでになく規模が大きいものであり、その規模に合わせた開発要員の増強、プロジェクト管理の見直し等、オペレーション体制構築に向けた投資を進めておりました。しかしながら、その後も想定以上に開発上の不具合やその改修作業が発生したこと、また、仕様の再調整などに時間を要していることから、改めて開発スケジュールの見直し、開発要員の増員等、今後の開発コストを精査した結果、受注損失引当金繰入額を追加計上することといたしました。

6. 特別損失の内容（個別）

連結子会社である株式会社 We Agri の経営成績及び財政状態を踏まえ、同社に対する貸倒引当金繰入額 46 百万円を計上することといたしました。なお、当該貸倒引当金繰入額は、連結財務諸表においては影響ありません。

7. 法人税等調整額（益）の計上について

当社は、将来減算一時差異の増加に伴い繰延税金資産を計上いたしました。これにより法人税等調整額（益）42 百万円を計上することといたしました。

以 上